

八ヶ岳火山

南北20km以上にわたって連なる八ヶ岳火山は、活動様式と岩質の違いによって、夏沢峠付近を境にして南八ヶ岳火山群と北八ヶ岳火山群に区分されます。北八ヶ岳地域、八柱(やばしら)火山群の火山活動時期は約120〜80万年前と約50万年前以降と考えられています。また、南八ヶ岳地域の火山活動時期は約50〜10万年前であるとされています。またこの時期には、塩嶺(えんれい)火山岩類、霧ヶ峰火山岩類、八子ヶ峰火山岩類、和田峠火山岩類の噴出が起こっています。



八ヶ岳

八ヶ岳は活火山?

横岳は八ヶ岳火山列北端に位置し、厚い溶岩流と溶岩ドームからなる、東西4km、南北2kmの小規模な火山です。気象庁によると北横岳の南側に位置する八丁溶岩(坪庭)は地形が新しく植生もほとんど発達しておらず、約600〜800年前のものであると測定されました。このことから、その頃に溶岩流を流出する噴火が発生したものと判断され、2003年の活火山見直し作業で活火山に指定されました。ただし監視・観測体制の充実等が必要な火山には入っていない、噴火警戒レベルも設定されていません。



坪庭

縮枯現象の不思議

北八ヶ岳の縮枯山でみられる縮枯現象は、蓼科山から箕冠山までの間だけに分布しています。亜高山帯針葉樹林の世代交代が考えられています。これらの常緑針葉樹は、およそ100年の寿命があると横並びに枯れ、世代交代が繰り返されます。“縮”は時間の経過とともに斜面上方に移動します。一列に樹木が枯死する原因として、斜面を吹き抜ける一定方向の卓越風の存在によるとも考えられています。



縮枯山

松原湖の誕生／流れ山

887年8月22日(平安時代の仁和(にんな)3年)天狗岳と稲子岳の東壁で大崩壊が起きました。稲子岳の山頂が東側へ140mもずり落ちたのです。崩れた岩や土砂は周囲の樹木などを巻き込みながら流れ下る「大月川岩屑(がんせつ)なだれ」を引き起こしました。この大災害の原因については諸説あり、同年に「仁和地震」南海トラフ巨大地震(M8026)が発生しています。この時に松原湖の湖沼群が誕生しました。

※ながれ-やま【流れ山】火山が山体崩壊を起こし、岩石が山麓(さんろく)に落下してできる地形。

山の中なのになぜ海の地名が...

山体崩壊で岩屑(がんせつ)なだれを起こして大月川を流れ下った泥流は、千曲川と相木川をせき止めて天然ダムを形作りました。現在の「海尻」という地名は千曲川をせき止めた天然ダムの名残。千曲川をさかのぼり、山梨側に始まりだったのでしょうか。海ノ口から山梨方面はまた、「小海」という地名は相木川の天然ダムに由来します。千曲川のよりも小さかったのでそのまま小海です。



松原湖

八千穂高原

八千穂高原は北八ヶ岳の東麓に広がる自然豊かな火山活動によってできた台地上の高原です。約200haに50万本の白樺林が堂々と植生し、その群生は日本一にふさわしい優美さを見せています。ヤマツツジ、ミツバツツジ、レンゲツツジ、ドウダンツツジの群生地としても有名で白樺とのコントラストは見事です。「八千穂高原自然園」(約27ha)は、温帯林と亜寒帯林が接している地域にあり、豊富な植生を観察することができます。



昭和歌謡の名曲「北国の春」

白樺、青空、南風…。の歌い出して始まる千昌夫の大ヒット曲「北国の春」。千昌夫の出身は岩手なので、東北地方の春を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、実は具体的な地名は歌詞中に登場しないが、作詞者の「いで はく」は近隣の南牧村の出身で、彼自身が「故郷、信州の情景を描いたのだ」と語っています。

シラカンバ(白樺)と、ダケカンバ(岳樺)

同じカバノキ科カバノキ属に含まれる近縁種です。どちらも高原に見られるが、白樺は標高1,500mあたりまで、一方ダケカンバはそれより高く森林限界まで自生しています。標高1,500〜標高1,800mあたりでは、シラカンバとダケカンバの混在している様子を見ることができます。



北八ヶ岳には大小さまざまな湖沼が点在します。溶岩流によってせきとめられてきたり、火口の跡に水がたまってできたものです。



白駒の池

白駒の池は、白駒峰の噴火により大石川源流がせき止められて誕生した堰止湖であると言われています。その大きさは面積0.11平方km、周囲長1.35km。標高2,000m以上の高地にある湖としては日本最大の天然湖です。池周辺はコマツガやシラビソ、トウヒなど亜高山性針葉樹林の原生林が広がり、ごつごつした溶岩でできた林床には様々なコケが緑の絨毯のように敷きつめられています。岩の起伏や陥没してできた木の根の空洞、横たわる倒木などが神秘的な風景を作っています。

地獄谷火口

この火口は、八ヶ岳火山の中でも比較的新しい火口と考えられています。また、現在確認されている火口の中では、最も標高が低い位置にあり、規模は最小です。大きな溶岩の隙間に夏でも氷塊が見られることがあり、冷風が吹き出す風穴となっています。年によっては火口底に一時的に水がたまり、池となることもあります。



渓谷 横谷峡

横谷観音展望台から望む紅葉の王滝



森林資源の活用

八ヶ岳山麓ではその森林資源を活用し、民家の収納庫として特徴的な板倉が建てられてきました。

板倉の種類は井籠(せいらう)倉と落とし板倉に分類されます。

井籠倉は角材を井桁に組んで積み上げた倉です。松やから松の森林資源がふんだんに使えた古いタイプの板倉で、角材を井げたに組んで積み上げて建てられています。森林資源がふんだんに使えなくなると、落とし板倉が登場してきます。壁材は角材から板材に変わり、柱を建ててその間に厚板を落とし込んだ構造に変わります。



むきだしのままの落とし板倉

山は木材の供給源

東麓の小海町、西麓の茅野市北山エリアには井籠(せいらう)倉が限定的に分布する地域であることが確認されています。集落には板壁に土を塗っていない倉や、土壁を塗ってある倉、漆喰で仕上げた倉が混在しています。父親が板倉を建て、息子が土壁を塗り、そのまた子供が漆喰・なまこ壁に仕上げるといった具合に倉は引き継がれてゆきます。また、経済的な理由で途中の段階で止まることもあります。



土壁が塗られた井籠(せいらう)倉



なまこ壁に仕上げられた板倉

空

猪熊 隆之の

観天望気のススミ!



日本の山は、ダイナミックさでは海外に負けるんですが、自然が繊細で、人の暮らしがすぐ側にあることが特徴だと思います。欧米では、人は人、自然は自然で分けられています。日本では人と山が、昔から密接に結びついている。その日本の中でも、長野県は全てのアルプスを抱えている唯一の県で、3000メートルの山々、そして盆地があります。田園風景と山のコントラスト、人と自然が織り成す風景がとても美しいと感じます。交通機関も発達しているので、エキスパートじゃなくても気軽に3000メートルの稜線に立つことができる。本当に恵まれた環境です。ピーナスラインなど車で行ける場所も多いですよ。

そして、山は雲を眺めるのに最適な場所です。普段は見上げることしかできない雲がぐっと近くに見える、ときには見下ろすこともできます。雲を見ることで、その後の天候変化を予想することを観天望気と呼びます。八ヶ岳は観天望気にふさわしい山です。中部山岳の真ん中にあり、アルプスの山々や富士山、周囲の盆地を望むことができるため、湿った空気の入り具合や、地形による天気の違いを知ることができるからです。雲を見ることは楽しいし、天気が読めると登山はもっと面白くなります。そうすると次第に分らないことを解決することにも手応えを感じるようになってくると思います。そうやって、どんどん興味を深めてもらえれば嬉しいです。



猪熊 隆之さん (いのくま たかゆき)

2011年秋に、国内初の山岳気象専門会社「ヤマテン」を茅野市に設立。山岳交通機関、スキー場、旅行会社、山小屋などに気象情報を配信している。チョムカンリ(チベット)、エベレスト西稜、剣岳北方稜線冬季全山縦走などの登攀歴がある。著書に山の天気だまされる山(山と渓谷社)、山岳気象予報士で恩返し(三五館)、山岳気象大全(山と渓谷社)など。日本テレビ「世界の果てまでイッテQ」の登山隊やNHK「グレートサミッツ」、東宝「春を背負って」、東映「草原の椅子」など国内外の撮影のサポートもしている。茅野市縄文ふるさと大使。(https://www.yamaten.net/)

八ヶ岳の空で見られた雲&空



UFOのようなレンズ雲 波打つ雲海 秋の空といわし雲 嵐を呼ぶ吊し雲 八ヶ岳からの夕焼け空

空を見上げてみよう

山に登ると、空が広く感じられます。普段はビルの壁に遮られて部分的にしか見えない空が、頭上どころか、はるか遠くの地平線まで広がっています。また、山は雲を観察するのに最適な場所です。雲は、見ることも聞くこともできない「空の気持ち」を語ってくれます。それだけでなく、登山者に天候変化の前兆となるサインを送ってくれることもあります。何より、雲を見るのにお金は取られません。タダで誰でも見ることができるのです!

八ヶ岳で大雷雨になったときの雲の変化



朝早くから山の上にごうごうとした雨が降ってきたときは要注意。いつもは東側(小海線側)から発生するが、西側(茅野側)で発達するときは要警戒。雲が上へ上へと成長し、雲の底が灰色がかったら、沢から離れ、雷の危険性が少ないところへ避難を。真っ黒な雲が近づいてきたり、ひやっとした冷たい風が吹いてきたら、突然の豪雨に備えて沢沿いではすぐに高台に逃げよう。また、落雷に備えて大木のそばから遠ざかり、ストックなどの尖ったものを遠ざけて高いところから低いところへ避難しよう。

雲の特徴を覚え、雲が発する声に耳を傾ければ、山に登る楽しみがまたひとつ増えることでしょ。